

自治体国際交流表彰(総務大臣賞)～国際親善姉妹都市アナハイム市との交流～

2013年8月

公益財団法人水戸市国際交流協会

1 はじめに

公益財団法人水戸市国際交流協会は、1995年に市民レベルでの国際交流を推進することを目的に発足し、以来、行政と民間のパイプ役を務めるとともに、姉妹都市交流を中心とした国際交流、多文化共生事業に取り組んでいます。

2 姉妹都市交流のあゆみ

水戸市とアナハイム市との交流は、アナハイム市在住で水戸市出身の実業家が、恩師をアナハイム市に招待したことを契機として始まりました。様々な人的交流が実を結び、1976年12月に、両市は国際親善姉妹都市を締結しました。両市では、市民訪問団などの定期的な相互訪問を中心に、互いの文化への理解を深める交流が続いています。

特に、将来を担う青少年の交流には積極的に取り組んでおり、国際的な視野に立つ人材の育成を目的として、毎年学生の派遣・受入れを行っています。

3 受賞事業「ガンバレ！MITO！～アナハイムからの応援メッセージ展～」

このたびの自治体国際交流表彰では、35年以上に及ぶ市民の地道な活動が受け継がれ、「友好親善」の理念が草の根レベルで浸透している、震災の教訓を生かした防災対策について姉妹都市間の連携が図られているといった点で評価をいただき、受賞につながりました。

「アナハイムからの応援メッセージ展」は、過去に水戸市を訪問したアナハイム市学生親善大使のダニエル・ヴァルガスさんが、2011年3月11日に発生した東日本大震災のニュースに衝撃を受け、「1,000通の思いやりの手紙」を送るキャンペーンを発案したことから始まりました。3,000通を超えた手紙は、同年4月にアナハイム市特使が来日し、水戸市に届けられました。水戸市民への励ました復興への願いを綴ったメッセージは、私たちの大きな心の支えとなり、同時に、両市の強い絆を感じることができました。当協会では、この手紙を市内の幼稚園・小学校・中学校に配布したほか、水戸市国際交流センターにおいて「メッセージ展」を開催しました。手紙は、子どもから大人まで多くの市民の目に触れ、水戸市民からは感謝の意を伝える手紙が返信されたことで、両市民間の交流となりました。



その後、2012年7月に、水戸市学生親善大使がアナハイム市を訪れ、当時の被害状況や復興の現状をアナハイム市民に直接伝える機会を得ました。また、同年11月には、水戸市の親善訪問団がアナハイム市を訪問し、防災への取組みについて活発な議論がなされました。その中で、アナハイム市では、日本の個々の防災意識の高さについて感心するとともに、

同じ境遇の人々が助け合う精神を目の当たりにし、震災後、アナハイム市ではコミュニティーのつながりを深める政策を打ち出し、緊急事態発生時に生かす取り組みが行われるようになりました。このように、手紙のやり取りから防災対策へと、両市の交流は次のステップへと踏み出しました。



4 さらに交流の推進に向けて－課題と今後の展望－

これまで進めてきた相互訪問の中で、国際親善、信頼関係の構築という当初の目標は、一定レベルで達成できていると思います。今後は、この友好関係を基礎として、どのように交流発展の可能性を広げ、実行していくかが重要であると考えています。市民と行政が協働し、「姉妹都市」というツールを使った多種多様な事業を展開するという観点から、(1)教育分野の交流、(2)青少年交流事業の充実化、(3)経済交流、(4)行政間の交流に着目しています。

教育分野では、姉妹都市から英語指導助手を採用しており、今後計画的に増員するとともに、単なる「英語の指導・理解」で終わらない、互いの文化を学べるような双方向交流の発展を目指しています。

青少年交流事業では、次世代を交流の担い手として育成するという観点から、学生の受動的な「協力」から積極的な「参画」へと、主体的に活躍できる環境を作っていく、市民が彼らの経験を共有することで、広がりのある交流に発展させていきたいと考えています。

経済交流の分野では、姉妹都市の絆のもと、経済団体や NPO、NGO 同士の交流を側面的に支援するとともに、両都市の経済促進の仕組み作りを模索したいと考えています。

行政間の交流では、行政システムの違いはあれども、防災意識や地域内の絆づくりなど、共通の課題は多いことから、情報を共有するとともに、姉妹都市間が連携して良い政策を打ち出していけるような新たな交流を模索できないかと考えています。

5 おわりに

昨今、日本の地方自治体の財政状況は逼迫しており、自治体が行う国際交流は徐々に縮小傾向にあります。今後、姉妹都市交流をはじめとする国際交流活動は、国際交流協会あるいは市民団体などが率先して行うことになるでしょう。国や地方自治体の政策あるいは援助を受けながら、限りある予算の中で創意工夫を凝らし、市民にとって魅力ある質の高い交流が求められるなか、私ども国際交流協会が担うべき役割は、大変重要であると認識しています。姉妹都市は、まだまだ多くの可能性を秘めています。この紹介を機に、市民レベルによる新しい視点からの姉妹都市交流が広がることを期待してやみません。